

研究所だより



第129号

令和2年 3月 26日発行

可児市教育委員会

可児市教育研究所

可児市下恵土 5166-1

TEL(0574)63-4841

e-mail :kyoikukenkkyu@city.kani.lg.jp

私は私を創っていく責任者

可児市小中学校長会長（広見小学校長） 成瀬 英員

オリンピックが開催される2020年。中国を中心に世界に拡大している新型コロナウイルスによる感染拡大のために全国の学校が一斉休校となった。こうした状況になったときに、子供達に望むことは何か。子供達の安全、安心はもちろんであるが、こんな状況下であるからこそ、自ら考えて勉強できる子、そんな自らを律し訓練できる子であってほしいと願う。日々の学校生活では、子供達に好ましい学習習慣や生活習慣を身に着けさせていくことに心を砕いてきたはずだ。そんなことを考えていると一遍の詩が思い出された。東井義雄さんの『人生の詩(うた)』より「心のスイッチ」という詩である。

『心のスイッチ』 東井 義雄

人間の目は ふしぎな目
見ようという心がなかったら
見ているも見えない
人間の耳は ふしぎな耳
聞こうという心がなかったら
聞いていても聞こえない
頭もそうだ はじめからよい頭 悪い頭の区別があるのではないようだ
「よし やるぞ!」と
心のスイッチが入ると
頭も すばらしい はたらきを始める
心のスイッチが 人間を
つまらなくもし すばらしくもしていく

電灯のスイッチが
家の中を明るくもし 暗くもするように

東井さんは、伝説の教師であり、かの森信三氏が「教育界の国宝」とも評した人物でもある。

その著書の中で「人間は5千通りの可能性をもって生まれてくる。その5千通りの可能性から、どんな自分を取り出していくのか。世界でただ一人の私を、どんな自分に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人一人です。」と残されている。

誰もが自分に対してスイッチを入れることができるかどうかは、その一度きりの自分自身の人生において一生のテーマでもある。自分は自分の主人公。自分を育てるのは自分自身であり、私は私を創っていく責任者であるということ東井さんの言葉により思い起された。

学校が休校になり、家庭で過ごすことができない子供達が朝早くから学校に来て自習室で過ごしている。その様子を見ているとどの子も黙々と次から次へと自分の課題にチャレンジしている。「よし やるぞ!」と心のスイッチが入った状態になっている。そんな子供達を日頃から先生たちが育てているのである。ここにも今年一年の結果として姿が現れていることを知った場面であった。あらためて私たちのゴールは、一人一人を自立させていくこととの思いを新たにしたい。

令和元年度 可児市学校教育力向上事業

ねらい

「誰もが過ごしやすい学びやすい学校、学級をつくり、児童生徒の学力の向上を図る」

3つのキーワード

- 「ルール」…共通の行動規範、行動様式
- 「リレーション」…親和的な関係づくり
- 「ユニバーサルデザイン」…誰にでもわかりやすい

検証

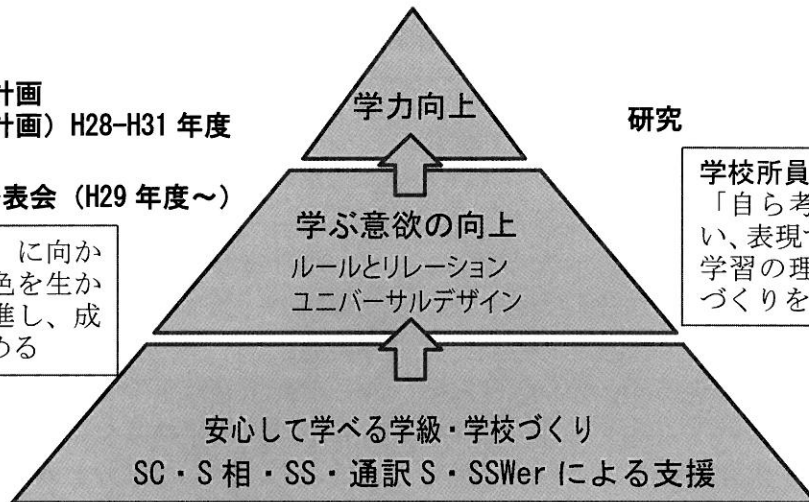
NRT、全国学力・学習状況調査
QU 検査

教育大綱

市教育基本計画
(後期計画) H28-H31 年度

「笑顔の学校」公表会 (H29 年度～)

「笑顔の学校」に向かって自校の特色を生かした取組を推進し、成果を市内に広める



研究

学校所員会
「自ら考え、仲間と学び合い、表現する子の育成～協同学習の理念に基づいた授業づくりを通して～」

2グループに分かれ授業研究

●教育講演会

- 特別支援教育連続講座 (3回)
伊花 ひとみ 浅井 洋子
飯田 香苗、大月 雄太 (可茂特別支援学校)
- 教育研究所主催の夏季研修 (12 研修講座)
- 各小中学校オープン講座
「特別支援教育」「教科指導」「体験講座」など
講師：西山 史子 (上級教育カウンセラー) 他

研 修

- 学校所員研修
「協同学習の理念に基づいた授業づくりの実際について」
倉知 雪春 (学びの共同学習研究会)
- 講師派遣 (Q-U・いのちの授業・ala など)
Q-U: 神谷 光子 市内小中学校 13 校
いのちの授業: 直井亜紀 (さら助産院)
ala 学校おすすめプログラム

- ◇西山先生による巡回相談
年間 300 件を超える相談を行う
- ◇療法士による巡回相談
全小中学校対象

- ◇発達と教育の相談会 (5月～3月の毎月1回)
約 17 件の相談を 5 名の医師など専門家が
行う
- ◇スマイリングルーム
学習・体験活動、創作活動・表現活動
運動・レクリエーションなど

令和元年度 可児市学校所員会 研究実践報告

令和元年度 学校所員会の研究実践について紹介します。

1 学校所員の研究テーマ

「自ら考え、仲間と学び合い、表現する子の育成 ～協同学習の理念に基づいた授業づくりを通して～」

2 研究内容

新学習指導要領での授業改善の視点である、「主体的・対話的で深い学び」の実現を佐藤学氏の提唱する「学びの共同体」での協同学習の理念に基づいた授業づくりを通して、①課題設定までの工夫と学習課題の適正化 ②学習形態・交流活動の工夫について実践しました。

3 実践の状況

(1) 「協同的な学び」についての研修

①5月15日 学校所員会

演題 『『協同学習』の進め方』

講師 倉知 雪春 先生

(愛知文教大学 学びの共同体スーパーバイザー)

②6月12日 学校所員会

実践校での授業参観、研究会

愛知県小牧市立大城小学校

2年生 国語

6年生 算数

③各グループ別研究授業にて

「協同学習」についての講話

講師 倉知 雪春 先生

(2) グループ別研究授業・授業研究会

10月4日 中部中学校(数学科)

授業者 竹田 浩大 教諭

1年生「量の変化と比例・反比例」

11月12日 桜ヶ丘小学校(算数科)

授業者 志津 佑子 教諭

1年生「ひき算」

他、実践報告者14名による実践

講師 倉知 雪春先生

(愛知文教大学 学びの共同体スーパーバイザー)

(3) 実践発表会

2月5日 学校所員会

1年間、学んだことを研究授業での実践を基に各グループで発表、交流

4 研究について

【研究内容①②】教科の本質にそった学び 創造的・挑戦的学び

○没頭できる課題の設定

子どもの学びを深める教材をつくり、子どもが夢中になる課題を設定することが大切である。特に「共有の課題」と「ジャンプの課題」の「ジャンプの課題」において教科書レベル以上の高いレベルの課題を設定し、子どもたちがその課題を考えていく中で、共有課題に立ち返り、学び直しを行ったり、必然的な「共同的な学び」の場を創り出したりすることができる。

小4算数「面積」ジャンプ課題の例

色の例ついた部分の面積は、何cm²でしょう。



【研究内容③】学び合う関係づくり

○教師の関わり(聞く、つなぐ、戻す)

児童生徒理解をしっかりと行い、グループに「学び合う関係」を育て、グループ内の関係を「つなぐ」のが教師の役割である。

○グループ

個人が理解する、納得することを支えるのがグループ(ペア)の役割である。様々な立場の意見が聞けるように男女混合のグループが望ましい。小学校1,2年生ではペアでの学習、3年生以降の4人グループにつなげていけるとよい。

協同学習では「分からなくても、間違っても大丈夫だ。」という学級の雰囲気を作っていくことが重要であり、そのことがよりよい学級経営にもつながる。

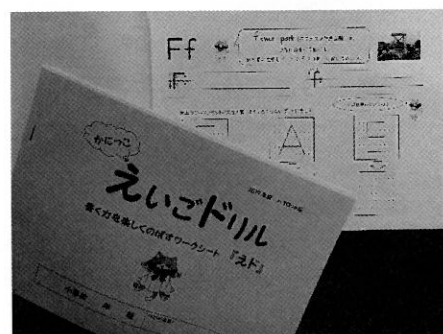
紙面の都合上一部しか紹介できませんでした。詳細は「研究紀要」をご覧ください。熱心な所員の先生方のご協力により、実り多い研究となりました。深く感謝いたします。

「移行期の2年間を終えて」

可児市英語アドバイザー 清水万里子
(株)エデュシーズ代表・岐阜女子大学(非)

移行期は We Can! 1&2 に沿った2年間分の指導案(かっこ英語サポートチームで作成)が全小学校で活用されました。かっこ英語プログラムも7年目を迎え、OJT 英語授業サポート、絵カード・ワークシートの作成、英語サマースクール、英語かるた大会、英国演劇ワークショップのサポート、かっこ英語通信の発行などの多様な活動もしっかり定着してきたように思います。

さて、今年度は小学校高学年における外国語教育の教科化に伴い文字学習を進めるため「かっこ英語ドリル」のパイロット版を作成しました。アルファベットの文字を書く学習は少し難しいのですが、時間をかけて進める仕組みを作るとよいと思います。そこで、かっこ英語サポートチームでは、単調になりがちな文字学習を楽しく継続させる文字ドリルを考え、10~11月に南帷子小で実践しました。ただ書くだけでなく、学習認知能力も高められるようなコグトレワークや、プリントの一部にアルファベットの文字と関係のある可児市の名所史跡、文化・産業などの英語表記も含めました。その後のアンケート調査では以下のような感想や提案がありました。子どもたちは楽しんで「えど」で学習してくれたようです。



■ 6年生(原文のまま)

- ・英語を学びながらも可児市のことを知れていい。楽しく考えながら英語を学べると思う。
- ・可児市のふるさと情報を見ながら、楽しく覚えることができた。同じ種類の覚え方でなく、毎回毎回違う覚え方をすることで飽きずに興味を持って行う(覚える)ことができた。
- ・アルファベットを練習するんじゃなくて、カラーとか果物の名前などを練習するほうがいいと思う。でも、アルファベットごとにふるさと情報が書いてあるのはいい工夫だと思いました。

■ 5年生(原文のまま)

- ・楽しかったけど難しいところもあっていい感じでした。
- ・可児市のふるさと情報も書いてあり、いろんな種類のワークがあつてとても楽しかった。
- ・書く量3回ずつだと少し忘れそうなので、書く量は4~5回くらいあつてもよいと思います。
- ・数えたり写したり見つけたり想像したりして、とても楽しくアルファベットの勉強ができてとてもうれしかったです。

いよいよ新年度から高学年で「教科」としての英語学習が始まります。新しい教科書で学ぶことになりますが、基本的に英語コミュニケーション活動であることに変わりありません。また、中学年はこれまでと同様に Let's Try! 1&2 で学びます。子どもたちが楽しく学びながら「好き・楽しい」を増やし続けていってほしいと願っています。

初任者の声

「一人一人が安心して生活 できる学級を目指して」

可児市立今渡南小学校 篠原 妃伽

初任者としての一年間を振り返ると、授業や学級経営がうまくいかず悩んだこと、一方で何事にも一生懸命な子どもの姿に励まされたこと、さまざまな出来事が浮かんできます。

私は、一人一人が安心して生活でき、仲間と共に高めあえる学級にするために2つのことを心掛けました。

1つ目は、授業のあいさつです。授業のあいさつに、「キビキビあいさつ」という名前をつけ、みんなで授業を頑張るという意味を込めてあいさつができるようにこだわってきました。前期は、立つときと座るときに「いち、に、さん。」という声をかけ、タイミングが合うようにしました。後期は、「姿勢」「返事」「すばやさ」の3つの観点で子どもの良い姿を認め合う活動をしました。あいさつにこだわる事で、みんなと一緒に授業を頑張るという気持ちになれる子どもが増え、挙手や発言に意欲的な子どもの姿が見られるようになってきたと感じています。

2つ目は、職員の中での情報共有です。指導がうまくいかなくて困ったときに相談させていただいたり、学級でよい姿があったときに伝えたりしました。トラブルが起こったときは毎回悩みましたが、学年の先生方の指導の仕方を勉強させていただき、様々な場面での対応を考えられるようになってきました。一方、良い姿も報告し、他の先生からも認めてもらえる機会を作りました。生活アンケートでは悩みを書く子どもが減り、授業や係の仕事を頑張ることができたと回答できる子どもが増えました。

来年度は、今年の実践を生かし、より一層子どもたちが安心して生活でき、仲間も自分も大切にできるような教室を作っていきたいと思えます。また、私自身も楽しみながら子どもたちと共に成長していきたいです。

一年間を振り返って

可児市立広陵中学校 野村 亮太

1年間を振り返って、多くのことを学べた1年だったと感じます。その中で特に三年生副担任・体育科教科担任として2つのことにこだわって取り組んできました。

1つ目は、教科指導（保健体育）です。はじめの頃は、自分が教えるんだという思いからつい話をしすぎてしまったり、明確な指示がなかったりする中で授業を進めてしまいました。その後先生方からのご指導を受けて「活動時間を確保すること」、「生徒同士の学び合いを大切にすること」、「生徒の実態を踏まえて授業を構想すること」を大切に授業を行うことにしました。すると、以前よりも生徒が主体的に仲間と協力して体育に取り組む姿が増えてきました。自分が教材研究など試行錯誤した結果、生徒の成長した姿を見られた時に教員としての手ごたえを感じることができました。今後もこの気持ちを大切にして教科指導に努めていきたいです。

2つ目は、率先して職務にあたるということです。教員になってから、校務分掌以外に想像していた以上の職務があり混乱しました。3年生の巣立ち活動（卒業に向けた清掃活動）や女子バスケットボール部顧問以外に、陸上部、駅伝部、など様々な担当を務める経験ができました。これらをなんとか務めることができたのも、色々な先生方に仕事の優先順位を考えるよう声をかけていただいたおかげです。今後も組織の一員として報・連・相を大切にしながら周りの方々へ還元できるように努力していきたいです。

来年度からは学級担任になることも考えられます。責任が今年以上に重くなります。生徒と共に仲間のことを思い合える、あたたかく前向きなクラスをつくることが目標です。また、初心を忘れず向上心を持って学び続ける教員でありたいです。

第35回教育実践研究助成事業教育実践論文候補者の概要

日常生活との関連から算数の有用性を実感できる図形領域指導の在り方 ～地域社会につなげる教材の開発を通して～

可児市立帷子小学校 教諭 中川 貴斗

本実践研究の趣旨は、児童が算数の有用性を実感するためには、学習場面と生活場面をどのように結びつけていくかを提言することである。また、地域のよさに密着したふるさと教育には、どのような教材開発が有効であるかも明らかにする。そのために、算数の有用性を実感し、日常の事象に数学的な見方・考え方を働かせ、課題を論理的に解決する学習が必要だと考える。しかし、事前の調査より、図形学習で算数の有用性を実感している児童は少ないことが明らかになった。そこで、図形学習と日常生活との関連から算数の有用性を実感することが喫緊の課題であると捉え、本研究主題を設定した。研究内容Ⅰでは、日常生活を題材にした単元指導計画を作成し、継続的な指導の在り方を検討した。研究内容Ⅱでは、新学習指導要領の三つの柱を軸に、日常の事象を数学科させるための教材を開発し授業を実践した。新学習指導要領の実施に向け、学習場面と日常場面を関連させて数学的に考える力を育む点で、本研究は広く汎用性があると考えられる。

【講評】

事前調査から子どもたちの実態をつかみ、算数の有用性を実感させるための具体的な方策と手立て、そして、教材開発の有効性を示した具体性かつ斬新性のある実践である。半具体物の活用、帷子小学区のミニマップ作成や建築会社の地域企業の紹介といった地域教材の活用は、苦手になっている子どもたちにとっても、学ぶ楽しさや意欲につながったと考えられる。児童の生活の日常場面を活かした実践を継続的に進めている。

多文化を理解し、一人一人に寄り添う保健室経営を目指して ～意図的、継続的な歯科保健活動から～

可児市立今渡北小学校 養護教諭 竹田 菜奈子

本論文は、児童と保護者の生活環境や文化等の背景を理解した上で、意図的、継続的な歯科保健活動を推進することにより、児童と保護者の歯の健康に対する意識と実践力を高めることを目的としたものである。研究実践（1）では歯みがき状況調査とカラーテストの実施を通して実態把握を行い、養護教諭による保健指導、TTでの歯科指導において関心・理解を深める保健指導を実施した。研究実践（2）では歯みがきタイムの工夫やCO※に着目した歯科検診と個別指導において、児童が自ら健康の保持増進に向けて取り組む活動の充実を図った。研究実践（3）では継続的な治療勧告、就学時健康診断における治療勧告と仕上げみがきの啓発、歯みがきカードの工夫、外国籍保護者懇談会での保健講話を通して、教職員と連携した保護者への啓発活動を行った。これらの実践により児童と保護者の歯の健康に関する意識と実践力を向上させることができた。今後は心の問題にもアプローチし、児童が毎日安心安全に笑顔で過ごせる学校を目指し、保健室経営を行いたい。（※むし歯になりそうな歯）

【講評】

外国籍児童に関わる問題を養護教諭という自分の職種から適切に捉え、主題設定に必然性があります。データからの分析や、アプリケーションソフトの導入など、児童の実態に合わせた効果的な実践や、数値で効果の検証がなされ、説得力があります。また、多くの人と連携し、保健講話や懇談会を利用して啓発活動を進めたことも、大きな成果を生み出しました。願いを明確に持ち、外国籍児童・保護者に寄り添ったとても温かい実践です。

学び合う楽しさを味わう生徒の育成

～「聴き合う関係」「真正の学び」「ジャンプの課題」のある授業改善と学び合い～

可児市立中部中学校 教諭 竹田 浩大

本実践論文は、生徒指導困難校と言われる時期を抜け、生徒が主体的に学びに向かい始めた中部中学校の2年間の研究の歩みと今年度の実践、今後の研究の方向をつなぐことはもちろん、仲間と学び合う楽しさを味わう生徒の笑顔で溢れる中部中学校に成長することを願い、まとめた論文である。新学習指導要領改訂による「主体的・対話的で深い学び」を生み出し、求められる資質・能力を育てていくために、学校を改革する佐藤学氏の【学びの共同体】の理念を研究の柱として、実践を積み重ねてきた。この実践により「生徒自身が学びに向かう主体的な学び」や「仲間や教師、教材とのかかわりを大切に、学びを深めていく対話的な学び」、「教科の本質や創造的・挑戦的に学びに向かう深い学び」を求めて、日々の授業に取り組む生徒や教師の姿を生み出すことができた。これまでの一斉授業からの脱却を図った教師の意識改革に始まり、「コの字で始まる授業」・「授業開始7分後4人グループ」を取り入れた授業形態の改善。また、対話的な学びを生み出すための授業デザインや教材研究、追究の手を止めない生徒の姿を生み出すためのジャンプの課題に取り組んできたことが成果として表れた。

【講評】

学びの共同体の本質的な理念を理解した上で、研究推進委員長として学校の先頭となって実践されたことに敬意を表します。端的なキーワードで示したり、生徒に目指す授業像を全校集会でイメージさせたりするなど、とても効果的な取組が行われました。また、学びに向かうことができる集団づくり（学び合う関係づくり）を重要視し、さらに、教科の本質に迫る学び、授業の中で本当の学びを実現するためのジャンプの課題と関連付けながら実践できた点も説得力があり、分かりやすい内容となっています。

「読むこと」の資質・能力を育成する授業改善

～ ^{コミュニカティブ}communicative ^{リーディング}reading の力を育成する言語活動を通して～

可児市立西可児中学校 教諭 高木 恵子

本研究の目的は「読むこと」の資質・能力を育成する授業改善である。本研究では「読むこと」の資質・能力を、書き手とのやり取りを通して内容を解釈し、自分の考えを発信するコミュニカティブリーディング(communative reading)と捉える。この資質・能力を効果的に育成するため、書き手とのやり取りを通して「内容を解釈する段階」(研究内容Ⅰ)と、概要を捉えて「考えを産出する段階」(研究内容Ⅱ)の二段階に大きく分け、それぞれの言語活動の充実を図ることとした。研究内容Ⅰでは「会話読み」及び「言い換え読み」の言語活動を実践した。本言語活動では、書き手への相手意識を明確にした読みや文の機能的な意味を捉えた読みを重視することで、内容を解釈する力の育成を図った。研究内容Ⅱでは、概要を捉えて読む言語活動(並べ替え読み)を実践し、その活動内で推測や考えの表明を促す「発問」を提示することで、考えを産出する力の育成を図った。上記2点の実践に対して、生徒アンケート調査及び総合的な読解能力を測定する Cloze Test を実施し、本研究で提案する4つの言語活動の有用性を明らかにした。

【講評】

学習指導要領、Widdowson(2000)から言語活動「読むこと」の本質をとらえ、「内容を解釈する段階」と「考えを算出する段階」とに実践の視点を置き、「読むこと」の資質・能力育成を目指した授業改善であり、研究に向かう真摯な姿勢がうかがえる。また、調査を3回することで実践の効果の継続性にも触れる研究実践の検証方法は他者が参考にすべき点である。さらに、多くの文献を参考にして本実践を裏付け、自身の専門性を高める努力が日常的に行われている。

令和元年度可児市教育実践論文応募のまとめ

◇応募状況

校種	職務別			年代別			性別			領域別 (論文数)																								
	教頭	教諭	養護教諭	合計	20代	30代	40代以上	合計	男性	女性	合計	教科											小計①	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	その他	小計②	合計
												国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	美術	家庭	保健	英語												
小	17	1	18	15	3		18	7	11	18	2	2	7		1		1				13	1			1			2	1		5	18		
中	9		9	5	4		9	6	3	9			2						1	4	7	1							1	2	9			
計	26	1	27	20	7	0	27	13	14	27	2	2	9	0	1	0	1	0	1	4	20	2	0	0	1	0	0	2	1	1	7	27		

<優秀賞>学番順

No	学校名	氏名	領域	研究テーマ
1	帷子小	中川 貴斗	算数	日常生活との関連から算数の有用性を実感できる図形領域指導の在り方～地域社会につなげる教材の開発を通して～
2	今渡北小	竹田 菜奈子	健康安全	多文化を理解し、一人一人に寄り添う保健室経営を目指して～意図的、継続的な歯科保健活動から～
3	兼山小	佐々木 美緒	特別支援	特別支援学級における実態に合わせた国語科指導～スモールステップを意識した授業づくり～
4	中部中	竹田 浩大	その他	学び合う楽しさを味わう生徒の育成～「聴き合う関係」「真正の学び」「ジャンプの課題」のある授業改善と学び合い～
5	西可児中	高木 恵子	英語	「読むこと」の資質・能力を育成する授業改善 コミュニケーション リーディング ～communicative readingの力を育成する言語活動を通して～

<優良賞>学番順

No	学校名	氏名	領域	研究テーマ
1	今渡南小	中島 由貴	特別支援	特別支援の子どもたちが楽しく学習できる教材・教具作り
2	広見小	豊田 拓也	算数	意図的、段階的な活動の工夫を通して立場や意図を明確にした話し合いの力を伸ばす指導
3	今渡北小	古賀 栞	算数	数学的な見方・考え方を身に付けることができる児童の育成～「見方・考え方」を明確に位置付けた授業改善を通して～
4	今渡北小	原 一啓	外国語活動	移行期間に考える、小学校外国語指導～パフォーマンス課題の設定とルーブリックを使った評価～
5	今渡北小	松尾 雄太郎	社会	資料を根拠に思考し、社会的事象を深く理解する児童の育成～教材開発と児童の変容を通して～
6	蘇南中	下屋 湧泉	道徳	生徒一人一人が道徳的価値について理解を深め、道徳性を高める授業の在り方

◇令和元年度実践論文 審査講評より

- 「働き方改革」の中、若い先生方を中心に、日頃の実践を教育実践論文という形で、自主的にまとめられたことに敬意を表す。
- 3年目までの教員の応募が21人(約78%)あり、どの論文からも児童生徒に寄り添い、愛情に満ちたまなざしで実践されていた。また、しっかりと仮説を立て、具体的な方途で実践し、そして検証を行うなど教員としての成長を感じた。
- 客観的データや専門書を参考に、児童生徒の実態を的確につかみ、具体的な改善策や支援方法を講じられた実践が多かった。
- 「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び(学びの協働体)」をテーマにした論文が多く、新学習指導要領の趣旨を踏まえながら先進的な取組を試行しようとする前向きな姿勢を感じた。
- 特別支援教育では、個の実情に合わせたきめ細かな実践が印象的だった。また、外国籍の児童生徒に関する実践も多く、可児市の実情に合った論文が多かった。
- 教科では、子どもの目線にたった指導計画を作成したり、子どもにとって視覚的にも分かりやすい教具を作成したり、想像力を湧き立てる場面を設定したりするなど、見直しをもったきめ細かな手立てが非常に効果的だった実践が多かった。
- 教師の力量を高めるために、実践してきたことを論文にまとめるなど、地道な取組の積み重ねを今後も大切にしていきたい。何歳になっても、いつもインプットできる教員でありたい。
- 全国学力・学習状況調査やQ-U、NRTなどの具体的な数値から児童生徒の実態を明らかにしたテーマの設定ができるようになると、論文としての意図性が出てくる。
- 今年度から6ページとページ数が減少したこともあり、継続的な実践を表現することが難しかった。抽出児の成長を追っていくなど、焦点を絞った論文の方が、論文としての説得力が出てくる。